

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 国語 科目 入試国語演習

教科：国語 科目：入試国語演習 単位数：2 単位
 対象学年組：第3学年 1組～7組
 教科担当者：鈴木
 使用教科書：わかる、とける現代文 解法のテクニック3【三訂版】（啓隆社）、
 ロジック現代文 私大過去問題演習 マーク+記述対策編【改訂版】（桐原書店）、
 読み・解き・覚える新版日本文学史必携（第一学習社）

教科 国語 の目標：
 【知識及び技能】入試に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
入試に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			話	聞	書	読					
1 学 期	第1・2回	進路対策として入試における実践力を養うため、問題を解かせ、解答開設を行う。更に、文学史の小テストを行い、国語の基礎的な素養を養う。	○	○	○		(知) 文学史、語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 文章を速読し、内容を的確に読み取り、正確に問題に解答する。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
	第3・4回	進路対策として入試における実践力を養うため、問題を解かせ、解答開設を行う。更に、文学史の小テストを行い、国語の基礎的な素養を養う。	○	○	○		(知) 文学史、語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 文章を速読し、内容を的確に読み取り、正確に問題に解答する。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
	定期考査							○	○		1
2 学 期	第5・6回	進路対策として入試における実践力を養うため、問題を解かせ、解答開設を行う。更に、文学史の小テストを行い、国語の基礎的な素養を養う。	○	○	○		(知) 文学史、語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 文章を速読し、内容を的確に読み取り、正確に問題に解答する。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
	第7・8回	進路対策として入試における実践力を養うため、問題を解かせ、解答開設を行う。更に、文学史の小テストを行い、国語の基礎的な素養を養う。	○	○	○		(知) 文学史、語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 文章を速読し、内容を的確に読み取り、正確に問題に解答する。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
	定期考査							○	○		1
3 学 期	第9・10回	進路対策として入試における実践力を養うため、問題を解かせ、解答開設を行う。更に、文学史の小テストを行い、国語の基礎的な素養を養う。	○	○	○		(知) 文学史、語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 文章を速読し、内容を的確に読み取り、正確に問題に解答する。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	13
	定期考査							○	○		1
											合計
											72

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 国語 科目 国語探究

教科：国語 科目：国語探究 単位数：2 単位
 対象学年組：第3学年 1組～7組
 教科担当者：（1～7組：山内）
 使用教科書：（啓隆社「テスト式 国語常識の総演習 四訂版」）
 教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 国語探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 時 数
			話・聞	書	読						
1 学 期	第1・2回	語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できるようにする。	○	○	○	【知識及び技能】 語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 【思考力・判断力・表現等】 国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14	
	第3・4回	語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できるようにする。	○	○	○	【知識及び技能】 語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 【思考力・判断力・表現等】 国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14	
2 学 期	第5・6回	語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できるようにする。	○	○	○	【知識及び技能】 語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 【思考力・判断力・表現等】 国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14	
	第7・8回	語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できるようにする。	○	○	○	【知識及び技能】 語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 【思考力・判断力・表現等】 国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14	
3 学 期	第9・10回	語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できるようにする。	○	○	○	【知識及び技能】 語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 【思考力・判断力・表現等】 国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14	

東京都立篠崎高等学校 令和8年度 教科 地理歴史 科目 自由選択 地理探究 年間授業計画

教科：地理歴史 科目：自由選択 地理探究 単位数：2単位

対象学年組：第3学年

教科担当者：小黒

使用教科書：（帝国書院『新詳地理探究』、帝国書院『新詳高等地図』）

使用教材：（とうほう『ニューコンパスノート2026』）

	指導内容	科目 自由選択 地理B の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	地形図・地図記号	地形図の種類と地図記号を理解する。	地形図と地図記号を理解できたか。	2
	大地形	地形の成り立ちを理解する。	地形の成り立ちを理解できたか。	2
5月	小地形	大地形に引き続き、どのような要因で地形が形成されていくかを理解する。	地形の成り立ちを理解できたか。	2
	気候・ケッペンの気候区分	ケッペンの気候区分を復習し、各気候の特徴を理解する。	各気候の特徴を理解できたか。	2
	気候・雨温図・ハイサーグラフ	雨温図・ハイサーグラフを作成し、各気候を理解する。	雨温図とハイサーグラフを作成し、各気候の特徴を理解できたか。	2
6月	気候・植生と土壌	植生と土壌の関係を各気候区と関連させて理解する。	植生と土壌の関係を理解できたか。	2
	日本の地形・気候・自然災害	日本の地形と気候を復習し、自然災害の特徴も理解する。	日本の自然災害の特徴を理解できたか。	2
	環境問題・地球温暖化・森林破壊	地球温暖化と森林破壊の現状を理解する。	地球温暖化と森林破壊の現状を理解できたか。	2
	環境問題・砂漠化・大気汚染	砂漠化と大気汚染の現状を理解する。	砂漠化と大気汚染の現状を理解できたか。	2
7月				
8月				

	指導内容	科目 自由選択 地理B の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9月	資源と産業・農林水産業・主要農産物	世界各地の農林水産業の特徴を理解する。	世界の農林水産業の特徴を理解できたか。	2
	資源と産業・食糧問題	食糧問題の現状を理解する。	食糧問題の現状を理解できたか。	2
	資源と産業・エネルギー資源	世界のエネルギー資源の特徴を理解する。	世界のエネルギー資源の特徴を理解できたか。	2
10月	資源と産業・鉱産資源・主要鉱産物	世界の鉱産資源と主要鉱産物の現状を理解する。	世界の鉱産物の現状を理解できたか。	2
	資源と産業・工業の発達・世界の工業地帯	工業の発達と世界の工業地帯の現状を理解する。	工業発達の推移と工業地帯の現状を理解できたか。	2
	資源と産業・第3次産業・観光・交通網	第3次産業と観光業を世界の交通網と関連させて理解する。	第3次産業と観光業を交通網の発達と関連させて理解できたか。	2
11月	資源と産業・貿易	世界の貿易の状況を理解する。	世界の貿易の状況を理解できたか。	2
	世界の人口・人口問題	世界の人口問題を理解する。	世界の人口問題の現状を理解できたか。	2
	村落と都市・集落の立地	集落の立地を具体例を通して理解する。	集落の立地を理解できたか。	2
	村落と都市・都市問題	世界の都市問題を理解する。	世界の都市問題の現状を理解できたか。	2
12月	生活文化・世界の衣食住	世界の衣食住を具体例を通して理解する。	世界の衣食住を各地域ごとに理解できたか。	2
1月	生活文化・食生活と宗教	食生活と宗教の関係を理解する。	宗教の食生活に関するタブーを理解できたか。	2
	民族と宗教・民族・言語	世界の宗教と民族、言語を理解する。	宗教と民族、言語の関係を理解できたか。	2
	現代世界の国家・民族宗教問題	世界の民族問題と宗教問題を理解する。	世界の民族・宗教問題の現状を理解できたか。	2
2月				
3月				

高等学校 令和8年度（3学年用）教科

地理歴史科 科目 歴史探究

教科：地理歴史科

科目：歴史探究

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年

教科担当者：松野

使用教科書：（ 帝国書院『明解歴史総合』 ）

教科 地理歴史科 の目標：

【知識及び技能】 歴史的な転換点の因果について理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめている。

【思考力、判断力、表現力等】 歴史的現象の意義、及びその特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 現代の諸課題について、歴史的現象を踏まえ、より良い社会の実現を視野に主体的に解決しようとしている。

科目 歴史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
歴史総合での学習をふまえ、現代世界の持つ重要な要素としての「大衆化社会」、「グローバル化社会」が、さまざまな国際秩序の変化に基づいて生じていることについて理解を深めるとともに、諸史料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技術を向上させる。	歴史総合での学習をふまえ、歴史的現象の意味や意義、特色や相互の関連を、地形的関係、社会体制、人間と自然環境との相互関係、相互依存作用などに着目しつつ活用し、多角的、多面的に考察したり、現代の諸課題の解決に向けて構想、考察したことを効果的に説明したり、議論したりする力をばす。	歴史総合での学習をふまえ、歴史的現象を踏まえ、より良い社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的に考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、及び世界と結びつく国際人としての自覚などをさらに深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<p>・歴史総合で学習した力を生かし、自らの進路をふまえ自ら調べ知識を深めを表現する力を身につける。</p> <p>【知識及び技能】 知識を深めるために必要な文献を探ることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自ら調べたことを表現するための基礎的な手法を身につける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 知的好奇心をもって主体的に歴史と向き合うことができる。</p>	<p>・指導事項 研究テーマの設定の仕方・文献の探し方・レポート作成の基礎知識・講義をとおり歴史的関心を深める</p> <p>・教材 教科書・資料集・一般書籍</p>	<p>【知識及び技能】 歴史事項を正しく理解し知識を広げることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文献を活用しレポート形式で表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ゼミ形式の授業に積極的に参加し知識や関心を深めようとする姿勢がみられる。</p>	○	○	○	24
2 学 期	<p>・1学期に身につけた知識や表現する力を発展させる。</p> <p>【知識及び技能】 複数の文献を活用できるようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文化祭の展示や小論文の手法で表現する力を身につける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 フィールドワークや文化祭の展示などで知的好奇心や歴史的関心をもって主体的に学ぶことができる。</p>	<p>・指導事項 レポート形式から小論文形式で表現する能力を身につける・講義だけでなく文化祭などでの発表をとおり歴史的関心を深める・フィールドワークの手法を学ぶ</p> <p>・教材 教科書・資料集・一般書籍</p>	<p>【知識及び技能】 歴史事項を正しく理解し知識を広げることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 複数の文献を活用し小論文形式で表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 フィールドワークや文化祭での活動に積極的に参加し知識や関心を深めようとする姿勢がみられる。</p>	○	○	○	26
3 学 期	<p>・1・2学期に学んだことを小論文にまとめ、進路につなげる。</p> <p>【知識及び技能】 複数の文献を活用し小論文にまとめることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 歴史的な事項を小論文形式で表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 自らの進路と関わり深いテーマの小論文作成によって主体的に歴史と向き合うことができる。</p>	<p>・指導事項 小論文の作成、発表</p> <p>・教材 教科書・資料集・一般書籍</p>	<p>【知識及び技能】 小論文の作成や発表をとおり歴史事項を正しく理解し知識を広げることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 小論文の作成や発表をとおり思考力、判断力、表現力を身につけることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 小論文の作成や発表をとおり積極的かつ主体的に知識や関心を深めようとする姿勢がみられる。</p>	○	○	○	20
合計							70

高等学校 令和8年度 教科 数学 科目 数学受験演習(自由選択)

教科：数学 科目：数学受験演習(自由選択) 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 選択者

教科担当者：春田・岸川

使用教科書：(新編 数学Ⅰ(数研出版)、新編 数学Ⅱ(数研出版)、リンク数学演習Ⅰ・ⅡABC〔ベクトル〕(受験編)(数研出版)

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】数学における基本的な概念や原理・原則を体系的に理解できるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を育てる。

【学びに向かう力、人間性等】問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を育てる。

科目 数学受験演習(自由選択) の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学Ⅱを中心に、数学ⅠAⅡB+ベクトルの内容について復習・学習し、問題演習を通じて受験を見据えた基礎力の定着を図る。また、事象を数学的に解釈し、数学的な表現や処理ができる技能を身に付ける。	問題演習を通じて事象を数学的に考察し、問題解決の過程や結果をふり返って発展的に考える力を養うことで、初見の問題にも対応できるように数学的思考力を身に付ける。	問題解決に向けて粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を育てる。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を育てる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1、数学Ⅰの内容 【知識及び技能】 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決に向けて粘り強く取り組めるようにする数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	○指導項目 ・数と式 ・集合と命題 ・2次関数 ・図形と計量 ・データの分析 ○使用教材 教科書及び問題集 ○一人1台端末の活用	【知識・技能】 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付けている。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。 ・社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	17
2、数学Aの内容 【知識及び技能】 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	○指導項目 ・場合の数と確率 ・図形の性質 ・数学と人間の活動(整数) ○使用教材 教科書及び問題集 ○一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 【思考・判断・表現】 ・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力を身に付けている。 ・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。 ・数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1

高等学校 令和8年度

教科 数学

科目 自選 看護医療系数学

教科： 数学 科目： 自選 看護医療系数学 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組、3 組、5 組、6 組、7 組

教科担当者： (1 組、3 組、5 組、6 組、7 組 (森 茂))

使用教科書： (数研出版 新編数学 I)

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学科したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し、総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の

科目 自選 看護医療系数学 の目標： 数学 I ・ A の内容を深く理解し、看護医療系大学や専門学校的一般受験に臨めるようにする。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学科したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表し、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。さらに、看護医療系の大学・専門学校的一般入試に対応する学力を身に付ける。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。さらに、看護医療の大学・専門学校的一般入試に対応する学力を身に付けようとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 数と式 【知識及び技能】 • 指数法則や乗法公式といった計算規則についての理解を深め、適切に式を変形することができる。 • 乗法公式を逆に用いることで因数分解の公式として利用できることを理解し、式を正しく因数分解することができる。 • 平方根の計算や無理数の計算などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 • 式を多面的に捉える工夫の中から、目的に応じて適切な方法を判断することができる。 • 式の特徴に応じて、式の一部を1つの文字に置き換えて考えたり、特定の文字に着目して整理するなど、見通しをもって式を因数分解したりすることができる。 • 平方根の計算や無理数の計算などを展開や因数分解の公式や、平方完成などの式変形などの活用ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 • 式を多面的に捉えて、複数の方法で式を変形する方法について、それぞれのよさを比較・検討しようとしている。 • 式を多面的に捉えて、複数の見方で式を整理して因数分解する方法について、それぞれの良さを比較・検討しようとしている。	1章 数と式 1節 式の計算 1 展開 2 因数分解 2節 実数 1 実数 2 根号を含む式の計算	【知識・技能】 • 2次の乗法公式、因数分解の公式について理解を深めている。 • 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。 • 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 • 問題を解決する際に、すでに学んだ計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 • 不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができる。 • 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 • 数と式で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 • 数と式で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	9
定期考査			○	○		1
A 数と式 【知識及び技能】 • 不等式の意味やその基本性質、不等式の解と不等式を解くことの意味について理解し、1次不等式を解くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 • 具体的な数の大小関係をもとにして、不等式の基本性質について考察したり、説明したりすることができる。 • 連立不等式の解法を理解し、考察することができる。 • 食塩水の濃度のような看護医療系的一般受験の独特な問題に対応できる。 【学びに向かう力、人間性等】 • 具体的な数の大小関係をもとにして、不等式の基本性質について考察したり、説明したりしようとしている。	1章 数と式 3節 1次不等式 1 不等式と1次不等式 2 不等式的应用	【知識・技能】 • 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 • 不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 • 不等式の基礎的な性質を振り返って考察を深めたり、評価を改善したりしようとしている。	○	○	○	3

1 学期

<p>D 2次関数</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフの基礎的な項目を理解する。不等式の意味やその基本性質、不等式の解と不等式を解くことの意味について理解し、1次不等式を解くことができる。 関数の定義域・値域の意味を理解し、2次関数のグラフを用いて最大値、最小値を求めることができる。 2次不等式の解と2次関数のグラフの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの2次関数のグラフの位置関係について考察することができる。 2次関数のグラフを利用して、定義域に応じた値域、最大・最小を論理的に考察したり、具体的な問題の解決に活用したりすることができる。 2次不等式を利用して具体的な問題について解決することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの2次関数のグラフの位置関係について考えようとしている。 2次関数のグラフを利用して、定義域に応じた値域、最大・最小を考えようとしている。 <p>2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係も活用して2次不等式の解を求めようとしている。</p> <p>定期考査</p>	<p>2章 2次関数</p> <p>1節 2次関数とそのグラフ</p> <p>3 2次関数の決定</p> <p>2節 2次方程式と2次不等式</p> <p>4 2次関数のグラフとx軸の共有点</p> <p>5 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	5
<p>3章 図形と計量</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正接、正弦、余弦の意味を理解し、それらを用いて三角形の辺の長さを求めることができる。 正弦定理や余弦定理を用いて、外接円の半径を求めたり、既知の辺や角から残りの辺や角の大きさを求めたりすることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象を三角比を利用してその問題を解決することができる。 三角比を用いて三角形の構成要素間の関係を考察したり、それらの関係が一般の三角形においても成り立つことを説明したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三平方の定理や正接の定義を利用して、三角比の間に成り立つ関係を考えようとしている。 点の座標を用いて鋭角の三角比を表現したり、それをもとにして鈍角の三角比の定義について考えたりしようとしている。 三角比を用いて三角形の面積公式を導き出そうとしている。 <p>定期考査</p>	<p>3章 図形と計量</p> <p>1節 鋭角の三角比</p> <p>1 直角三角形と三角比</p> <p>2 三角比の相互関係</p> <p>2節 三角比の拡張</p> <p>1 三角比と座標</p> <p>2 三角比の性質</p> <p>3節 三角比への応用</p> <p>1 正弦定理・余弦定理・面積の公式</p> <p>2 空間図形の計量</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 三角比を鈍角まで拡張する意義と、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形と計量で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 図形と計量で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○		8
<p>2学期</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 場合の数と確率で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 場合の数と確率で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>定期考査</p>	<p>5章 場合の数と確率</p> <p>1節 集合と場合の数</p> <p>1 数え上げの原則と集合の要素の個数</p> <p>2 順列</p> <p>3 組合せ</p> <p>2節 確率とその基本性質</p> <p>1 事象と確率</p> <p>2 確率の基本性質</p> <p>3節 いろいろな確率</p> <p>1 独立な試行の確率</p> <p>2 反復試行の確率</p> <p>3 条件付き確率</p>		○	○		10
			○	○		1

3 学 期	<p>4章 図形と計量</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の内角の二等分線と比、外角の二等分線と比などについて理解し、それらを用いて線分の長さを求めることができる。 ・ 三角形の外心・内心・重心の性質を利用して、角の大きさや線分の長さを求めることができる。 ・ メネラウスの定理、チェバの定理を利用していろいろな辺の長さや比を求めることができる。 ・ 方べきの定理を利用して線分の長さを求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について、様々な性質を利用しながら考察することができる。 ・ 円に内接する四角形の定理、接線と弦のつくる角の定理それぞれの証明について、円周角の定理を利用して考察することができる。 ・ 方べきの定理の証明について、三角形の相似を利用して考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について、様々な性質を利用しながら考えようとしている。 ・ 方べきの定理の証明について、 <p>定期考査</p>	<p>6章 図形の性質</p> <p>1節 三角形と比</p> <p>1 三角形と比</p> <p>2 三角形の外心・内心・重心</p> <p>2節 円の性質</p> <p>1 円の性質</p> <p>2 方べきの定理</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・ 円に関する基本的な性質について理解している。 ・ 空間図形に関する基本的な性質について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の構成要素間の関係や既に学んだ図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・ コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の性質で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・ 図形の性質で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価改善したりしようとしている。 				4
					○	○	
							合計
							44

高等学校 令和8年度 教科 数学

科目数学Ⅰ (自選 数学Ⅰ・A基礎)

教科: 数学 科目: 数学Ⅰ (自選 数学Ⅰ・A基礎) 単位数: 2 単位
 対象学年組: 第 3 学年 組～ 組
 教科担当者: (1～7組: 石井)
 使用教科書: (数研出版 改訂版 新高校の数学Ⅰ対応ポイントノート数学Ⅰ、改訂版 新高校の数学Ⅰ対応ポイントノート数学A)

教科 数学 の目標: 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し、総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 科目数学Ⅰ (自選 数学Ⅰ・A基礎) の目標: 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学Ⅰ 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 数学A 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学Ⅰ 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表す力、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会的事象などから設定した問題について、データの散らばりや数量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 数学A 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、論理的に考察する力を養う。	数学Ⅰ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 数学A 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	記 時 数
数学Ⅰ 1章 数と式 【知識及び技能】 ・指数法則や乗法公式といった計算規則についての理解を深め、適切に式を変形することができる。 ・乗法公式を逆に用いることで因数分解の公式として利用できることを理解し、式を正しく因数分解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・式を多面的に捉える工夫の中から、目的に応じて適切な方法を判断することができる。 ・式の特徴に応じて、式の一部を1つの文字に置き換えて考えたり、特定の文字に着目して整理するなど、見通しをもって式を因数分解したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・式を多面的に捉えて、複数の方法で式を変形する方法や整理して因数分解する方法について、それぞれのよさを比較・検討しようとしている。	・指導事項 数学Ⅰ 第1章 数と式 1. 多項式の加法・減法・乗法 2. 展開の公式 3. 因数分解(1) 4. 因数分解(2) 数学A 準備 集合 第1章 場合の数と確率 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 円順列 ・教材 新課程基本と演習テーマ ・一人1台端末の活用 等	数学Ⅰ 【知識・技能】 ・2次の乗法公式、因数分解の公式について理解を深めている。 ・数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。 【思考・判断・表現】 ・問題を解決する際に、すでに学んだ計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数と式で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 数学A 【知識・技能】 ・和集合・補集合の要素の個数、和の法則や積の法則を利用して場合の数を求めることができる。 ・順列の総数nPrや階乗の値や条件のある並び方の総数などを計算することができる。 ・円順列や重複順列について理解し、それらの総数を計算することができる。 【思考・判断・表現】 ・集合の要素の個数を図や補集合を用いて考察したり、和の法則や積の法則を利用して場合の数を計算したりすることができる。 ・円順列及び重複順列について図をかきなどしながら、原理を理解して立式し、場合の数の求め方を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・集合の要素の個数を図や補集合を用いて考えたり、積の法則による場合の数の計算方法を考えたりしようとしている。 ・円順列及び重複順列について図をかきなどしながら、立式して場合の数の求め方を考えようとしている。	○	○	○	6
数学A 1章 場合の数と確率 【知識及び技能】 ・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列の意味を理解し、順列の総数を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・場合の数で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・場合の数で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導事項 数学Ⅰ 第1章 数と式 5. 実数 6. 根号を含む式の計算 7. 不等式の性質 8. 1次不等式 9. 絶対値を含む方程式・不等式 数学A 第1章 場合の数と確率 5. 組合せ 6. 事象と確率 7. 確率の基本的性質 8. 独立試行と確率 ・教材 新課程基本と演習テーマ ・一人1台端末の活用 等	数学Ⅰ 【知識・技能】 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができる。 ・日常的事象や社会的事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数と式で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 数学A 【知識・技能】 ・順列や組み合わせを利用して、確率を求めることができる。 ・加法定理や余事象・和事象の考え方を活用して、確率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・確率の基本的性質について考察することができる。 ・独立試行の確立の考え方を活用して、反復試行の確立を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・同様に確かしい根元事象と関連付けながら事象の確率の考え方を説明しようとしている。 ・余事象を用いて確率を求めることのよさに気づき、余事象を積極的に活用しようとしている。	○	○	○	7
定期考査			○	○		1
1 学期 数学Ⅰ 2章 集合と論証 【知識及び技能】 ・集合に関する基本的な概念や記号の意味を理解し、適切に用いることができる。 ・命題と条件、必要条件、十分条件、必要十分条件の用語の定義を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・具体的な集合の例をもとにして、集合同士の共通部分や和集合の概念について考察することができる。 ・条件や命題の真偽について、それらを集合の包含関係と関連付け、図表示による表現を用いて考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・具体的な集合の例をもとにして、集合同士の共通部分や和集合の概念について考えようとしている。 ・条件や命題の真偽について、それらを集合の包含関係と関連付け、図表示による表現を用いて考えようとしている。 数学A 1章 場合の数と確率、2章 図形の性質	・指導事項 数学Ⅰ 第2章 集合と命題 1.0. 集合 1.1. 命題と条件 1.2. 必要条件と十分条件 1.3. 条件の否定 1.4. 命題とその逆・対偶・裏、命題と証明 数学A 第1章 場合の数と確率 9. 条件付き確率 10. 期待値 第2章 図形の性質 11. 中学校で学んだ平面図形 12. 三角形の辺の比 13. 三角形の外心・内心・重心 ・教材 新課程基本と演習テーマ	数学Ⅰ 【知識・技能】 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 【思考・判断・表現】 ・集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・集合と論証で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・集合と論証で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 数学A 【知識・技能】 ・条件付き確率を求めることができる。 ・三角形に関する基本的な性質について理解している。 【思考・判断・表現】 ・確率の性質などを利用して期待値について考察することが	○	○	○	6

<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 条件付き確率の意味と確率の乗法定理を理解し、条件付き確率を求めることができる。 期待値について理解し、期待値を求めたり、期待値を利用して確率を求めたりすることができる。 三角形の内角の二等分線と比、外角の二等分線と比などについて理解し、それらを用いて線分の長さを求めることができる。また、数直線上の内分点、外分点の座標を求めることができる。 三角形の外心・内心・重心の性質を利用して、角の大きさや線分の長さを求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで求めてきた確率と条件付き確率の違いを説明することができる。 三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について、様々な性質を利用しながら考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 期待値を具体的な問題の意思決定に利用しようとしている。 	<p>一人1台端末の活用 等</p>	<p>できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係や既に学んだ図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統一的・発展的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 条件付き確率の求め方を考えようとしている。 図形の性質で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 図形の性質で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	<p>○ ○ ○</p>	<p>6</p>
<p>数学Ⅰ 3章 2次関数</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数の意味や関数の値の表し方、及び2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、2次関数の式を平方完成するなどして、グラフをかくことができる。 関数の定義域・値域の意味を理解し、1次関数や2次関数のグラフを用いて最大値、最小値を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの2次関数のグラフの位置関係について考察することができる。 2次関数のグラフを利用して、定義域に応じた値域、最大・最小を論理的に考察したり、具体的な問題の解決に活用したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの2次関数のグラフの位置関係について考えようとしている。 2次関数のグラフを利用して、定義域に応じた値域、最大・最小を考えようとしている。 <p>数学A 2章 図形の性質</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> チェバの定理、メネラウスの定理を利用しているいろいろな辺の長さや比を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について、様々な性質を利用しながら考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について、様々な性質を利用しながら考えようとしている。 	<p>・指導事項</p> <p>数学Ⅰ 第3章 2次関数</p> <p>15. 関数とグラフ</p> <p>16. 2次関数のグラフ</p> <p>17. 2次関数の最大・最小</p> <p>数学A 第2章 図形の性質</p> <p>14. チェバの定理・メネラウスの定理</p> <p>15. 三角形の辺と角</p> <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ</p> <p>一人1台端末の活用 等</p>	<p>数学Ⅰ</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 <p>数学A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角形に関する基本的な性質について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係や既に学んだ図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統一的・発展的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の性質で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 図形の性質で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	<p>○ ○ ○</p>	<p>7</p>
<p>定期考査</p>			<p>○ ○</p>	<p>1</p>
<p>数学Ⅰ 3章 2次関数</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数を決定するための条件について基礎的な知識を身に付け、グラフに関する条件から2次関数を決定することができる。 判別式を用いて、2次方程式の解の個数を調べることができる。 2次不等式の解と2次関数のグラフの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフとx軸の共有点について、2次方程式の実数解と関連させて考察することができる。 2次方程式の実数解の個数に対する判別式の意義や有用性について考察することができる。 2次不等式を利用して具体的な問題について解決することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフとx軸の共有点を、2次方程式の実数解と関連づけて考えようとしている。 判別式を活用して2次方程式の実数解の個数の分析を考えようとしている。 <p>2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係を活用して2次不等式の解を考えようとしている。</p> <p>数学A 2章 図形の性質</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円周角の性質について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円に内接する四角形の定理、接線と弦のつくる角の定理それぞれの証明について、円周角の定理を利用して考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円周角の定理を利用して、円に内接する四角形について考えようとしている。 	<p>・指導事項</p> <p>数学Ⅰ 第3章 2次関数</p> <p>18. 2次関数の決定</p> <p>19. 2次方程式</p> <p>20. 2次関数のグラフとx軸の位置関係</p> <p>21. 2次不等式</p> <p>数学A 第2章 場合の数と確率</p> <p>16. 円周角</p> <p>17. 円に内接する四角形</p> <p>18. 円と直線</p> <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ</p> <p>一人1台端末の活用 等</p>	<p>数学Ⅰ</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 2次不等式を利用して具体的な問題について解決することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係を活用して2次不等式の解を考えようとしている。 <p>数学A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円に関する基本的な性質について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係や既に学んだ図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統一的・発展的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の性質で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 図形の性質で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	<p>○ ○ ○</p>	<p>8</p>
<p>数学Ⅰ 4章 図形と計量</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正弦、余弦の意味を理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象を三角比を利用してその問題を解決することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三平方の定理や正弦の定義を利用して、三角比の間に成り立つ関係を考えようとしている。 点の座標を用いて鋭角の三角比を表現したり、それをもとにして鈍角の三角比の定義について考えたりしようとしている。 <p>数学A 2章 図形の性質</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 方べきの定理を利用して線分の長さを求めることができる。 2つの円の位置関係から補助線を引くことによって、線分の長さを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 方べきの定理の証明について、三角形の相似を利用して考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 方べきの定理の証明について、三角形の相似を利用して考えようとしている。 	<p>・指導事項</p> <p>数学Ⅰ 第4章 図形と計量</p> <p>22. 三角比</p> <p>23. 三角比の相互関係</p> <p>24. 三角比の拡張</p> <p>数学A 第2章 図形の性質</p> <p>19. 方べきの定理</p> <p>20. 2つの円</p> <p>21. 作図</p> <p>22. 直線と平面</p> <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ</p> <p>一人1台端末の活用 等</p>	<p>数学Ⅰ</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 三角比を鈍角まで拡張する意義と、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形と計量で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 <p>数学A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円に関する基本的な性質について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係や既に学んだ図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統一的・発展的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の性質で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 図形の性質で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	<p>○ ○ ○</p>	<p>7</p>
<p>定期考査</p>			<p>○ ○</p>	<p>1</p>
<p>数学Ⅰ 4章 図形と計量</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正弦定理や余弦定理を用いて、外接円の半径を求めたり、既知の辺や角から残りの辺や角の大きさを求めたりすることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角比を用いて三角形の構成要素間の関係を考察したり、 	<p>・指導事項</p> <p>数学Ⅰ 第4章 図形と計量</p> <p>25. 正弦定理・余弦定理</p> <p>26. 三角形の面積</p> <p>27. 空間図形への応用</p> <p>数学A 第2章 図形の性質</p>	<p>数学Ⅰ</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事 	<p>○ ○ ○</p>	<p>7</p>

2
学期

	<p>り、それらの関係が一般の三角形においても成り立つことを説明したりすることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角比を用いて三角形の面積公式を導こうとしている。 <p>数学A 2章 図形の性質、3章 数学と人間の活動</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空間における2直線・2平面のなす角を求めることができる。 約数と倍数を求めることができる。 素数、素因数分解の求め方について理解することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空間における直線と平面の位置関係が垂直になる場合について、平面上に含まれる直線に着目して考察したり、説明したりすることができる。 約数や倍数、素数、素因数分解の知識を利用して最大公約数・最小公倍数について考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空間における直線と平面の位置関係が垂直になる場合について、平面上に含まれる直線に着目して説明しようとしている。 	<p>23. 空間図形と多面体 第3章 数学と人間の活動</p> <p>24. 約数と倍数</p> <p>25. 素数と素因数分解</p> <p>26. 最大公約数・最小公倍数</p> <p>・教材 新課程基本と演習テーマ ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形と計量で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>数学A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学と人間の活動で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 数学と人間の活動で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	8
	<p>数学I 5章 データの分析</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 偏差、分散、標準偏差の定義とその意味や特徴を理解し、データをもとにそれらを求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 偏差の総和を用いてデータの散らばりの大きさを表す方法の短所を見出し、分散の定義について考察したり、標準偏差を用いることの意義について説明したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 偏差の総和を用いてデータの散らばりの大きさを表す方法の短所を見出し、分散の定義や標準偏差を用いるの意義について考察したりしようとしている。 <p>数学A 3章 数学と人間の活動</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 整数の割り算について理解することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 整数の割り算からユークリッドの互除法について考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学と人間の活動で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 数学と人間の活動で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	<p>・指導事項 数学I 第5章 データの分析 28. データの整理 29. データの代表値 30. データの散らばりと四分位数 31. 分散と標準偏差</p> <p>数学A 第3章 数学と人間の活動 28. ユークリッドの互除法 29. 1次不定方程式</p> <p>・教材 新課程基本と演習テーマ ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>数学I</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> データの分析で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 <p>数学A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学と人間の活動で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 数学と人間の活動で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
3学期	<p>数学I 5章 データの分析</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不確実な事象の起こりやすさに着目し、首長の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりしようとしている。 <p>数学A 3章 数学と人間の活動</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> n進法の特徴を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学と人間の活動で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 数学と人間の活動で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	<p>・指導事項 数学I 第5章 データの分析 32. 2つの変量の間の関係 33. 仮説検定の考え方</p> <p>数学A 第3章 数学と人間の活動 30. n進法 31. 座標の考え方</p> <p>・教材 新課程基本と演習テーマ ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>数学I</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> データの分析で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>数学A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学と人間の活動で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 数学と人間の活動で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和8年度 教科

理科 科目 物理

教科： 理科 科目： 物理

単位数： 6 単位

対象学年組： 第 3 学年 選択者

教科担当者： (開) (組：) (組：) (組：)

使用教科書： (数研出版)

教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】 自然の事物、現象についての基本的な概念や法則を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 簡単な自然の現象に対して仮説を立てることができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 グループワークや実験において積極的に取り組むことができる。

科目 物理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
計算ができる。 自然の事物、現象についての基本的な概念や法則を知っている。 実験器具を安全に使用することができる。	問題について仮説を立てることができる。 問題について数式をつくることができる。 法則を数学を使って表すことができる。	学習に向かう努力ができる。 実験やグループワーク等において協働的な行動をとることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1 学 期	ベクトルの表現を読み取れる。等速直線運動から等加速度直線運動の公式を導ける。放物運動が等速直線運動と等加速度直線運動に分けて考えられる。モーメントが回転を表す物理量であることを知る。剛体の静止条件を知る。 力積を理解できる。一直線上とそれ以外の運動量保存を理解できる。物体の跳ね返りを反発係数を用いて考えられる。衝突問題などで成立する保存則を理解できる。 物体が円運動するための条件を理解できる。	平面内の運動 1：力と運動 2：剛体 運動量の保存 1：運動量と力積 2：運動量保存 3：反発係数 円運動と万有引力 1：等速円運動 2：慣性力	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	24
	定期考査			○	○		1
	単振動を円運動の考え方をつかえて考えられる。円運動、単振動を数式を使って考えることができる。ケプラーの法則を理解できる。万有引力による位置エネルギーを理解できる。 ボイルシャルルの法則と気体状態方程式を理解できる。気体分子運動論を理解できる。 熱力学第一法則をエネルギーの収支で理解できる。熱力学第一法則を用いて、定圧、定積、等温、断熱変化を考えられる。熱機関の問題を考えられる。	円運動と単振動、万有引力 3：単振動 4：万有引力 熱と気体 1：気体のエネルギーと状態変化	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	26
定期考査			○	○		1	
2 学 期	波を三角関数で表現できることを知る。音波の性質を知る。固有振動数やドップラー効果について振動数を求められる。光の性質を知る。ヤングの干渉、回折格子、薄膜の干渉、くさびの干渉などを考えることができる。凸凹レンズの作図ができる。凸レンズの公式を図で理解できる。 静電誘導と誘電分極を説明できる。点電荷がつくる電界と電位、電界から受ける力を理解できる。電流を説明できる。オームの法則が抵抗で成立すること、回路でキルヒホッフの法則を理解できる。コンデンサーが電荷を蓄える仕組みを理解できる。コンデンサーのエネルギーを計算できる。回路でコンデンサーの電荷保存の法則を理解できる。	波の伝わり方 1：波 音の伝わり方 光 電場と電流 1：静電気 2：動電気 3：直流回路	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	41
	定期考査			○	○		1
	磁界を電界の考え方で理解できる。直線電流、円電流とソレノイドコイルがつくる磁界を計算できる。ローレンツ力を理解できる。磁界中の電荷の運動を考察することができる。電磁誘導を考察することができる。	電流と磁場 1：磁場 2：ローレンツ力 3：電磁誘導	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	32
定期考査			○	○		1	
3 学 期	電磁誘導を考察することができる。自己誘導と相互誘導を理解できる。コイルが蓄えるエネルギーを計算できる。交流発電の仕組みを理解できる。交流での抵抗、コンデンサー、コイルの役割を理解できる。RLC直列回路と電気共振を理解できる。	交流 1：交流の発生 2：自己誘導と相互誘導 3：交流回路	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	29
	光電効果を理解できる。ミリカンの油滴実験を理解できる。X線の発生が理解できる。X線の干渉が理解できる。水素原子の電子のエネルギー準位を力学的に考えられる。	原子 1：光の二重性 2：物質波 3：原子構造とエネルギー準位	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
						合計	175

高等学校 令和8年度 教科 理科 科目 化学

教科：理科 科目：化学 単位数：6 単位
 対象学年組：第 3 学年 選択者
 教科担当者：川守田
 使用教科書：（新編 化学（数研出版））

教科 理科 の目標：
 【知識及び技能】 自然の事物、現象についての基本的な概念や法則を身に付ける。
 【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物、現象から疑問を見いだすことができ、その疑問に対して仮説を立てることができる。
 【学びに向かう力、人間性等】 グループワークや実験において自分の意見を発表する等、周囲に対して配慮しながらコミュニケーションをとることができる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自然の事物、現象についての基本的な概念法則を身に付ける。また、実験においては器具を安全に使用することができる。	自然の事物、現象から疑問を見出し、その疑問に対して仮説をすることができる。また、周囲と疑問点に関して議論を行うことができる。	実験やグループワーク等において、他者に配慮しながら行動することができる。また、他者の意見を取り入れながら、自分の考えを熟成させることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	物質の状態と平衡 ・状態変化 ・固体の構造 ・気体の性質 ・溶液	・三態変化の原因が分子間力であることを理解し、そのときの熱の出入りについても把握する。また、気液平衡の概念を理解し、蒸気圧、蒸発と沸騰の違い、沸点についても学ぶ。 ・状態変化には必ず熱の出入りがあることを理解する。また、それに伴う熱量は物質や相互の状態によって異なることを学ぶ。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	10
	物質の変化と平衡 ・化学反応と熱・光エネルギー ・電池と電気分解 ・反応の速さとしくみ ・化学平衡	・化学反応の種類と反応熱および状態変化に伴う熱などの種類と定義を学び、これらを熱化学方程式で表すことができること、また、ヘスの法則を用いると未知の熱量を計算で求められることを学ぶ。あわせて共有結合の結合エネルギーについても学ぶ。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	無機物質 ・周期表 ・非金属元素 ・金属元素	金属が水溶液中でイオンとなることは、酸化還元反応の一つであり、イオンになるなりやすさ、つまり金属のイオン化傾向は、金属の種類によって異なることを理解する。 また、金属のイオン化傾向が異なると、金属単体の性質が大きく異なることを理解し、金属の化学的性質と密接に関係していることを学ぶ。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	20
	有機化合物 ・有機化合物の特徴と分類		【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1

2 学 期	有機化合物 ・脂肪族炭化水素 ・酸素を含む脂肪族化合物 ・芳香族化合物	有機化合物全般について、分類と構造を学び、高分子化合物が生成する反応である重合反応を理解する。また、高分子化合物の性質である軟化点、熱可塑性・熱硬化性についても学ぶ。 合成高分子化合物には合成繊維と合成樹脂などがあるが、それぞれの材料の組成や構造がその特性とどのように関連しているのかを理解し、化学的な理解を深める。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	41
	定期考査			○	○		1
	高分子化合物 ・高分子化合物 ・天然高分子化合物 ・合成高分子化合物	有機化合物全般について、分類と構造を学び、高分子化合物が生成する反応である重合反応を理解する。また、高分子化合物の性質である軟化点、熱可塑性・熱硬化性についても学ぶ。 合成高分子化合物には合成繊維と合成樹脂などがあるが、それぞれの材料の組成や構造がその特性とどのように関連しているのかを理解し、化学的な理解を深める。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	32
定期考査			○	○		1	
3 学 期	化学基礎・化学の総まとめ	共通テスト問題や大学入試問題などの様々な問題演習に取り組む。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	40
	定期考査			○	○		1
						合計	168

高等学校 令和8年度 教科

理科 科目 生物

教科： 理科 科目： 生物

単位数： 6 単位

対象学年組： 第 3 学年 選択者

教科担当者： (遊佐)

(組：) (組：) (組：)

使用教科書： (第一学習社)

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 自然の事物、現象についての基本的な概念や法則を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 簡単な自然の現象に対して仮説を立てることができる。

【学びに向かう力、人間性等】 グループワークや実験において積極的に取り組むことができる。

科目 生物 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生命現象や、自然の事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生命現象や、自然の事物・現象について疑問に思ったことを、他者と共有する中で、新たな発見や課題を見つけ、それに対して探究することができる。	生命現象や、自然の事物・現象に対して積極的に関わり、それらに対する気付きから仮説を立て、自ら課題解決を図ろうとする。生命を尊重し、自然環境の保全に努めようとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学期	生物の進化 ・生命の起源と細胞の進化について、理解する。 ・遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化について、理解する。 ・進化のしくみについて、理解する。 生物の系統と進化 ・生物の系統について、理解する。 ・人類の系統と進化について、理解する。	生物の進化 ・生命の起源と細胞の進化 ・遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 ・進化のしくみ 生物の系統と進化 ・生物の系統 ・人類の系統と進化	【知識・技能】 ・生物の進化を地球環境の変化と関連付けて理解している。 ・生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ・生物の進化と地球環境の変化との関連に気付くことができる。 ・アミノ酸配列の違いにもとづいて生物の系統関係を推定することができることに、気付くことができる。	○	○	○	21
	定期考査			○	○		1
	細胞と分子 ・生物物質と細胞について、理解する。 ・タンパク質の構造と性質について、理解する。 ・生命現象とタンパク質について、理解する。 代謝 ・代謝とエネルギーについて、理解する。 ・炭酸同化について、理解する。 ・異化について、理解する。	細胞と分子 ・生物物質と細胞 ・タンパク質の構造と性質 ・生命現象とタンパク質 代謝 ・代謝とエネルギー ・炭酸同化 ・異化	【知識・技能】 ・細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ・外的条件が酵素に与える影響を検証する検証計画を立案することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・前向きに授業に取り組む、家庭でも学習に取り組むことができる。	○	○	○	29
定期考査			○	○		1	
2 学期	遺伝情報とその発現 ・DNAの複製について、理解する。 ・遺伝子の発現について、理解する。 遺伝子の発現調節と発生 ・遺伝子の発現調節について、理解する。 ・発生と遺伝子の発現調節について、理解する。	遺伝情報とその発現 ・DNAの複製 ・遺伝子の発現 遺伝子の発現調節と発生 ・遺伝子の発現調節 ・発生と遺伝子の発現調節	【知識・技能】 ・DNAの複製のしくみを理解している。 ・転写の調節をタンパク質と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ・遺伝子の発現が調整されることで、胚の領域ごとに異なる遺伝子が発現することについて、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・前向きに授業に取り組む、家庭でも学習に取り組むことができる。	○	○	○	41
	定期考査			○	○		1
	遺伝子を扱う技術とその応用 ・遺伝子を扱う技術について、理解する。 ・遺伝子を扱う技術の応用について、理解する。 動物の反応と行動 ・刺激の受容と反応について、理解する。 ・動物の行動について、理解する。	遺伝子を扱う技術とその応用 ・遺伝子を扱う技術 ・遺伝子を扱う技術の応用 動物の反応と行動 ・刺激の受容と反応 ・動物の行動	【知識・技能】 ・遺伝子を扱う技術の原理と有効性を理解している。 【思考・判断・表現】 ・細胞への遺伝子導入について、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・前向きに授業に取り組む、家庭でも学習に取り組むことができる。	○	○	○	32
定期考査			○	○		1	
3 学期	植物の成長と環境応答 ・植物と環境について、理解する。 ・植物の一生と植物ホルモンについて、理解する。	植物の成長と環境応答 ・植物と環境 ・植物の一生と植物ホルモン	【知識・技能】 ・植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・ダイコンの芽生えがリンゴの果実から受ける影響について仮説を設定し、実験結果をもとに仮説を検証することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・前向きに授業に取り組む、家庭でも学習に取り組むことができる。	○	○	○	29
	生態系のしくみと人間の関わり ・個体群と生物群集について、理解する。 ・生態系の物質生産と消費について、理解する。 ・生態系と人間生活について、理解する。	生態系のしくみと人間の関わり ・個体群と生物群集 ・生態系の物質生産と消費 ・生態系と人間生活	【知識・技能】 ・個体群が維持されるしくみや個体間の関係性を理解している。 【思考・判断・表現】 ・個体群の変動に影響を与える要因を見だし、仮説を設定することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・前向きに授業に取り組む、家庭でも学習に取り組むことができる。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
						合計	175

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 芸術 科目 保育と音楽

教科： 芸術 科目： 保育と音楽 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組 選択者
 教科担当者： 保坂 悠紀
 使用教科書： （ なし ）
 教科 芸術 音楽 の目標：

【知識及び技能】

創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現することができる。
 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性等について理解する。

【思考力、判断力、表現力等】

音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

科目 保育と音楽 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現することができる。 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性等について理解する。	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		歌	器	創						
【ガイダンス】 授業内ルールの確認	・授業の流れを理解させる ・評価の仕方を理解させる					・話をしっかりと聞けたか				1
A 歌唱<童謡> 「そうざん」「やぎさんゆうびん」「めだかの学校」「どんぐりころころ」等 ①創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現する。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色や旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもつ。 【学びに向かう力、人間性等】 ①正しい発声方法を身に付けて表現を創意工夫することに興味をもち、主体的・協動的に取り組む。	・発声練習 ・歌唱 ・歌詞の内容と表現 ・歌唱テスト	○			○	【知識・技能】 ①創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現している。 【思考・判断・表現】 ①音色や旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①正しい発声方法を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協動的に取り組んでいる。	○	○	○	10
B 器楽<ピアノ> 個々の習熟度に応じたピアノ教則本「バイエル」「ブルグミュラー」等 【知識及び技能】 ①ピアノの奏法について理解する。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感じながら、どのように表現するかについて表現意図をもち、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ①ピアノやピアノ音楽に関心をもち、主体的協動的に器楽の学習活動に取り組む。	・ピアノの基本的な奏法 ・音階練習 ・指の練習 ・実技テスト ・授業内発表会		○		○	【知識・技能】 ①ピアノの奏法について理解している。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感じながら、どのように表現するかについて表現意図をもち、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ①ピアノやピアノ音楽に関心をもち、主体的協動的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	20
A 歌唱<外国語歌曲> ①創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現する。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色や旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもつ。 【学びに向かう力、人間性等】 ①正しい発声方法を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協動的に取り組む。	・発声練習 ・発音練習 ・歌唱 ・歌詞の内容と表現 ・歌唱テスト	○			○	【知識・技能】 ①創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現している。 【思考・判断・表現】 ①音色や旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①正しい発声方法を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協動的に取り組んでいる。	○	○	○	10

<p>2・3 学期</p>	<p>B 器楽<ピアノ> 個々の習熟度に応じたピアノ教則本「バイエル」「ブルグミュラー」等</p> <p>【知識及び技能】 ①ピアノの奏法について理解する。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、どのように表現するかについて表現意図をもち、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ①ピアノやピアノ音楽に関心を持ち、主体的協働的に器楽の学習活動に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの基本的な奏法 ・音階練習 ・指の練習 ・実技テスト ・授業内発表会 	○	○	<p>【知識・技能】 ①ピアノの奏法について理解している。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、どのように表現するかについて表現意図をもち、主体的協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>	○	○	20
	<p>A ミュージックベル</p> <p>【知識及び技能】 ①ミュージックベルの構造や奏法について理解することができる。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表現するかについて表現意図をもち、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ①ミュージックベルやミュージックベル音楽に関心を持ち、主体的協働的に取り組む。 ②アンサンブルの演奏をすることに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージックベルの基本的な奏法 ・英語音名、イタリア語音名 ・グループ決め、担当決め ・ミュージックベル用楽譜作り ・グループ練習 ・グループ発表・鑑賞 	○	○	<p>【知識及び技能】 ①ミュージックベルの構造や奏法について理解している。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表現するかについて表現意図をもち、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ①ミュージックベルやミュージックベル音楽に関心を持ち、主体的協働的に取り組もうとしている。 ②アンサンブルの演奏をすることに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。</p>	○	○	8

高等学校 令和8年度 教科

家庭 科目 保育基礎

教科： 家庭 科目： 保育基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： 小守 友里恵

使用教科書： (保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ 教育図書)

教科 家庭 の目標：
【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、生活を主体的に営む為に必要な基礎的知識の理解を深める共に、それらに係る技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域や社会での生活の充実に資する実践的な態度を養う。

科目 保育基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期 保育の意義 【知識及び技能】 子どもの人格形成における保育の重要性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の将来における子どもへのかかわりについて、職業や、かかわる内容などを具体的に考えられる。 【学びに向かう力、人間性等】 子どもにかかわる職業について関心を持ち、自身が希望する職業に就くために必要なことを調べるなど、情報を収集・整理しようとしている。	・保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解する。 ・保育者のあるべき姿とはどのようなものかを考える。	【知識・技能】 子どもの人格形成における保育の重要性を理解している。 【思考・判断・表現】 自分の将来における子どもへのかかわりについて、職業や、かかわる内容などを具体的に考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どもにかかわる職業について関心を持ち、自身が希望する職業に就くために必要なことを調べるなど、情報を収集・整理しようとしている。	○	○	○	3
保育の環境 【知識及び技能】 家庭での養育と集団保育の役割を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 現在の子育て家庭が集団保育に求めていることについて、子育て環境の変化などと関連させながら具体的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な保育・教育施設について関心を持ち、ホームページからその特色を調べるなど自ら情報を収集しようとしている。	・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。 ・現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。	【知識・技能】 家庭での養育と集団保育の役割を理解している。 【思考・判断・表現】 現在の子育て家庭が集団保育に求めていることについて、子育て環境の変化などと関連させながら具体的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な保育・教育施設について関心を持ち、ホームページからその特色を調べるなど自ら情報を収集しようとしている。	○	○	○	3
子どもの発達の特徴 【知識及び技能】 子どもの発達の共通性・個別性について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 母子健康手帳などの資料を見ながら、発達の各側面が相互に関連し合っていることを読み取り、具体的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 子どもの発達の共通性・個別性について理解しようとしている。	・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切なことを理解する。 ・発達には順序性・連続性・方向性・相互性という一定の共通性がある一方で、個人差が大きいことを理解する。 ・子どもが主体的に環境にはたらきかけ、発達していくために、保育者などが応答的にかかわることが大切であることを理解する。	【知識・技能】 子どもの発達の共通性・個別性について理解している。 【思考・判断・表現】 母子健康手帳などの資料を見ながら、発達の各側面が相互に関連し合っていることを読み取り、具体的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どもの発達の共通性・個別性について理解しようとしている。	○	○	○	3
定期考査			○	○		1
子どもの健康と生活 【知識及び技能】 子どもの養護の必要性について理解し、その発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 生活習慣を題材にした絵本を選ぶ活動などを通じ、生活習慣の習得を促すための、保育者としての具体的ななかかわり方などを考察し、工夫することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を身につけようとしている。	・保育所保育指針などを取り上げながら養護の必要性・目的を理解し、発達段階に応じた適切な養護の方法を知る。 ・子どもを安全に養護するためのポイントや、注意点について知る。 ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。	【知識・技能】 子どもの養護の必要性について理解し、その発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 生活習慣を題材にした絵本を選ぶ活動などを通じ、生活習慣の習得を促すための、保育者としての具体的ななかかわり方などを考察し、工夫することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を身につけようとしている。	○	○	○	3
子どもの衣服と寝具 【知識及び技能】 乳幼児の発達や生活の特徴から、適切な衣服・寝具の状態について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】	・乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服計画ができるようになる。 ・衣服の選択を間違えると、思わぬ事故につながるかもしれないと知り、安全な衣生活について考える	【知識・技能】 乳幼児の発達や生活の特徴から、適切な衣服・寝具の状態について理解する。 【思考・判断・表現】 子どもが快適で安全な衣生活を送るために、衣服選びや着せ方をどう工夫すべきか				

2 学 期	<p>子どもが快適で安全な衣生活を送るために、衣服選びや着せ方をどう工夫すべきかなど、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 子どもの着替えやおむつ替えなどをする際にどのようにかわるかなど、自分が保育者や親になったときを想像し、自分ごととして捉えようとしている。</p>	<p>ことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な寝具やおむつの使い方などを理解する。 	<p>など、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 子どもの着替えやおむつ替えなどをする際にどのようにかわるかなど、自分が保育者や親になったときを想像し、自分ごととして捉えようとしている。</p>	○	○	○	2	
	<p>子どもの健康と安全</p> <p>【知識及び技能】 子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 子どもの目線を体験する活動などを通して、家庭や保育施設における安全性についての課題を見出し、子どもを危険から守るための具体的な方法を考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解しようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を知る。 子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さを理解する。また、病気の際に落ち着いて対処するための知識を得る。 子どもの健康を守るために、社会がどのようなサポートを行っているかを知る。 	<p>【知識・技能】 子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 子どもの目線を体験する活動などを通して、家庭や保育施設における安全性についての課題を見出し、子どもを危険から守るための具体的な方法を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解しようとしている。</p>	○	○	○	3	
	定期考査			○	○		1	
3 学 期	<p>子どもの食事</p> <p>【知識及び技能】 乳幼児期の食生活の特徴や、発達に必要なエネルギー・栄養素などについて理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 現代の子どもの食生活の変化について、健康や生活習慣に関する課題を見つけ、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 調理に関心をもち、調理実習に積極的に参加している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。 食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割をもつことを認識する。 	<p>【知識・技能】 乳幼児期の食生活の特徴や、発達に必要なエネルギー・栄養素などについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 現代の子どもの食生活の変化について、健康や生活習慣に関する課題を見つけ、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 調理に関心をもち、調理実習に積極的に参加している。</p>	○	○	○	1	
							合計	20

高等学校 令和8年度 教科

家庭 科目 フードデザイン

教科： 家庭 科目： フードデザイン

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： 小守 友里恵

使用教科書： (フードデザイン 実教出版)

教科 家庭 の目標：
【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、生活を主体的に営む為に必要な基礎的知識の理解を深める共に、それらに係る技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域や社会での生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 フードデザイン	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。
	【学びに向かう力、人間性等】
	人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	1節 食品の特徴と性質 【知識及び技能】 食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 食品の特性を図表などから科学的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持つようする。	・穀類、砂糖、大豆・豆製品、野菜、果物、海藻類、魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、油脂、調味料、香辛料等様々な食品について、それぞれの特徴を把握させる。 ・これらの食品について、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理にいかせる。	【知識・技能】 食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を習得することができる。 【思考・判断・表現】 食品の特性を図表などから科学的に考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食品の特徴や、調理操作によって変化する	○	○	○	8
	1節 献立作成 【知識及び技能】 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理など、一連の流れを計画し実践ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられる。	・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。 ・これまで身につけた知識を調理にいかし、手際よくつくるができるようになる。	【知識・技能】 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理など、一連の流れを計画し実践ができる。 【思考・判断・表現】 具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・	○	○	○	2
	定期考査・実技テスト			○	○		1
2 学期	4節 食品の衛生と安全 【知識及び技能】 食品の衛生と安全に関する基本的な知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 食品について安全や衛生に配慮した適切な判断ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 食品の表示・衛生に関心を持つようとしている。	・食中毒や衛生についての知識を深め、衛生と安全に配慮した調理ができるようにさせる。 ・食品添加物の定義や種類について把握させる。	【知識・技能】 食品の衛生と安全に関する基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 食品について安全や衛生に配慮した適切な判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食品の表示・衛生に関心を持つようとしている。	○	○	○	1
	1節 料理様式と献立 【知識及び技能】 様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身につけることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 食器・盛りつけ・テーブルクロス・照明などについて、目的に応じた適切な選択ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴に関心を持つようとしている。	・日本料理、西洋料理、中国料理等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について理解させる。	【知識・技能】 様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身につけることができる。 【思考・判断・表現】 食器・盛りつけ・テーブルクロス・照明などについて、目的に応じた適切な選択ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴に関心を	○	○	○	3
	1節 献立作成 【知識及び技能】 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理、テーブルコーディネートと料理のサービス方法など、一連の流れを計画し実践ができる。	・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。 ・これまで身につけた知識を調理	【知識・技能】 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理、テーブルコーディネートと料理のサービス方法など、一連の流れを計画し実				

	<p>【思考力、判断力、表現力等】 具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられる。</p>	<p>にいかし、手際よくつくることができるようにする。</p>	<p>践ができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられる。</p>	○	○	○	4
	定期考査・実技テスト			○	○		1
3 学期	<p>1 節 献立作成</p> <p>【知識及び技能】 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理、テーブルコーディネートと料理のサービス方法など、一連の流れを計画し実践ができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられる。</p>	<p>・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。</p> <p>・これまで身につけた知識を調理にいかし、手際よくつくることができるようにする。</p>	<p>【知識・技能】 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理、テーブルコーディネートと料理のサービス方法など、一連の流れを計画し実践ができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられる。</p>	○	○	○	3
							合計 23

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 情報 科目 情報Ⅰ演習

教科： 情報 科目： 情報Ⅰ演習 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： （1組～7組：佐藤万治）

使用教科書： （最新情報Ⅰ／実教出版）

教科 情報 の目標： 問題の発見・解決に向けての情報と情報技術を適切かつ効果的に活用できる資質・能力の育成

【知識及び技能】科目「情報Ⅰ演習」と同様

【思考力、判断力、表現力等】科目「情報Ⅰ演習」と同様

【学びに向かう力、人間性等】科目「情報Ⅰ演習」と同様

科目 情報Ⅰ演習 の目標： 問題の発見・解決に向けての情報と情報技術を適切かつ効果的に活用できる資質・能力の育成

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
情報と情報技術の問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技術を身につけているとともに、情報化の進展する社会の特質およびそのような社会と人間の関わりについて理解している。	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	○オリエンテーション・PC準備など 【知識及び技能】 授業のルール説明（ID管理など） 【思考力、判断力、表現力等】 ルールの必要性について考える 【学びに向かう力、人間性等】	・PC室端末について ・アカウントの説明 ○プリント配布	【知識・技能】 授業のルールに適したPC等の運用ができた 【思考・判断・表現】 ルールの必要性を理解し学習に取んできた 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的にPCを活用できた	○	○	○	2
	第5章 問題解決とその方法 【知識及び技能】 表計算ソフトを用いて関数を使用した基本操作ができる 表計算ソフトを用いてデータの並べ替え、抽出ができる情報化が進展する社会の特質について理解する グラフの種類や機能を理解し、表計算ソフトを用いてデータをグラフ化することができる 【思考力、判断力、表現力等】 問題解決の目的や内容に適したデータを選択して収集する力がある 問題解決の目的や条件にしたがって、表計算ソフトの関数を適切に適用してデータ処理を行うことができる 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決のため、表計算ソフトを用いて収集した情報を処理したり、グラフで可視化したりすることに興味を持って行うことができる	・教科書および自作プリントを使用 ・スライド提示 ○プリント配布 ○パソコン（PC教室）使用	【知識及び技能】 表計算ソフトを用いて関数を使用した基本操作ができた 表計算ソフトを用いてデータの並べ替え、抽出ができる情報化が進展する社会の特質について理解した グラフの種類や機能を理解し、表計算ソフトを用いてデータをグラフ化することができた 【思考力、判断力、表現力等】 問題解決の目的や内容に適したデータを選択して収集する力をつけた 問題解決の目的や条件にしたがって、表計算ソフトの関数を適切に適用してデータ処理を行うことができた 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決のため、表計算ソフトを用いて収集した情報を処理したり、グラフで可視化したりすることに興味を持った。また、データ分析を粘り強く行うことができた	○	○	○	18
2・3 学 期	第5章 メディアとデザイン 【知識及び技能】 情報をわかりやすく伝達するための文字や図の表現の工夫、表やグラフ、配色の工夫など、基本的な方法を理解している 作品制作の企画、準備、実施、評価、改善など、制作過程について理解している 実際に作品をコンピュータで作成することができる 【思考力、判断力、表現力等】 目的に沿って、情報を可視化したり配色を変えて表現をしたりすることができる 情報伝達やコミュニケーションを促進するために、情報デザインの工夫について、個人やグループで検討することができる イラストレーターソフトを用いて、適切かつ効果的な作品を制作することができる 【学びに向かう力、人間性等】 説得力のある作品を制作するため、粘り強く準備を進める	・教科書および自作プリントを使用 ・スライド提示 ○プリント配布 ○パソコン（PC教室）使用	【知識及び技能】 情報をわかりやすく伝達するための文字や図の表現の工夫、表やグラフ、配色の工夫など、基本的な方法を理解した 作品制作の企画、準備、実施、評価、改善など、流れについて理解した 実際に作品をコンピュータで作成することができた 【思考力、判断力、表現力等】 目的に沿って、情報を可視化したり配色を変えて表現をしたりすることができた 情報伝達やコミュニケーションを促進するために、情報デザインの工夫について、個人やグループで検討することができた イラストレーターソフトを用いて、適切かつ効果的な作品を制作することができた 【学びに向かう力、人間性等】 説得力のある作品を制作するため、粘り強く準備を進めた	○	○	○	50
							合計
							70